

公立高校の在り方に関する聞き取り調査結果(詳細版)

徳島県教育委員会では、通学区域制に関する有識者会議を開催するにあたり、公立高校の在り方に関する県内24市町村教育委員会の意見を把握するため、令和6年6月下旬から7月上旬にかけて、聞き取り調査を実施いたしました。

ここでは、各市町村教育委員会から頂いた御意見を紹介いたします。

		生徒数の減少を見据えた公立高校の在り方の方向性
1	徳島市	(適正配置・再編統合等) 今後、生徒数が減少することは確実であり、高校の在り方についての議論は避けられないと思われる。過去の専門高校等の再編において生じた課題を十分に考慮し、全県的な視野に立った議論をしていただきたい。 まずは、県教委として、生徒数が減少しても現在の高校数を維持するのか、又は、一定数の学校規模を維持するために学校再編の必要があるのか、方向性を示すことが望ましい。
2	鳴門市	(特色化・魅力化) 各高校においては、「スクールミッション」「スクールポリシー」を定め、特色化・魅力化を進めているが、普通科高校においても特色あるコースを設定するなど、特色化を先鋭化しても良いのではないかと考える。 例えば、鳴門高校に「教員養成コース」を設置し、鳴門教育大学と連携することにより、「学校の先生になるなら鳴門高校」という特色を出すことができるとともに、課題となっている教員不足対策や高度なICT教育を推進できる教員人材の育成・確保にもつながる可能性がある。 また、鳴門市は県内随一の観光都市であり、四国霊場88か所巡礼の出発点でもある。こうした条件を活かすとともに、今後のインバウンド需要等に対応できる人材を輩出することを目的として、鳴門渦潮高校に「ビジネス英語」や「ホスピタリティ」を学べるコースを設置することを提案したい。 鳴門市や鳴門市教育委員会は、市内に存する二つの県立高校である鳴門高校と鳴門渦潮高校の、魅力化・特色化の取組に対して、直接的・間接的な支援のほか、高校生の学力向上に資する施策を展開することを検討中である。 なお、高校の魅力化・特色化を進めるからこそ、「学びたい学校」にフラットな条件で進学できる教育環境が必要不可欠であり、高校の特色化・魅力化を進めていく上でも「通学区域制」の廃止が必要であると考ええる。
3	小松島市	(適正配置・再編統合等) 生徒数が減少しても、よりよい教育環境等の確保のための方策(適切な学校数の設定、私立高校とのバランスある学校再編、専門高校との融合等)を行い、遠距離通学者の抑制、地元高校の育成などが図られる必要がある。
4	阿南市	(特色化・魅力化) 自由な発想による、既存の枠にとらわれない学科の創出。 今後も不断努力により、生徒にとっては通いたい学校、保護者にとっては通わせたい学校、職員にとっては勤めたい学校の育成をお願いしたい。
5	吉野川市	(適正配置・再編統合等) 通学区域制に関する議論を深めることに併せて、県内全体の再編も含めた将来的な公立学校のあり方を検討していただきたい。 生徒数の減少が懸念される中、今後、高校の再編は避けて通れない課題であると考え。仮に学区制の撤廃となると、徳島市内への一極集中という事態も想定されるわけで、本市も含めた県西部地域にもその影響が懸念される。よって、県西部地域における教育振興策として、例えば新たな総合(普通科を含む)高校を新設(校歌や制服等全て一新)する構想も考えられる。予算的な問題(制約)もあるだろうが、高校の魅力化(生徒のニーズに応える)の推進という観点からも議論の俎上にあげていただきたい。 他の都道府県とは異なる徳島県の実情を踏まえ、混乱を招かぬよう今後学校現場の(中学校も含めた)声や要望も大事にしながら、本県に適した入試制度のあり方も含め、県下全体の公立高校の将来を見据えた方向性を示していただきたい。

		生徒数の減少を見据えた公立高校の在り方の方向性
6	阿波市	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 地元普通科高校は、長きにわたり地元を支える人材を輩出しており、なくてはならない学校である。また、地域が一体となって地元の高校を盛り立てようとする雰囲気があり、これからも生徒が「行きたい学校」と思える学校になってほしいと願っている。 そのためにも、各高校が魅力や特色ある学校づくりに努め、進学、スポーツ、就職等の実績を挙げていただきたい。
7	美馬市	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 将来的に生徒数の減少が見込まれるため、学校規模の縮小はやむを得ないが、各地域の拠点となる高校が存続できるよう努めてほしい。県内の公共交通機関の現状や保護者の経済的な負担等を考えると、再編統合についても慎重な議論が必要だと考えている。各地域の高校がより一層、魅力化に向けた取組を推進することで、子どもたちが学びたいと思える高校が今後も地域に存続するよう、地元高校の取組を応援していきたい。
8	三好市	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 急激な少子化問題に直面する地域の高校が、一定の募集定員を確保しやすいように、全県の生徒や保護者に見える形で「高校の特色化・魅力化」を積極的に発信していくことが求められる。特に、教育課程を弾力的に運用できる学科の新設や生徒、保護者の関心の高い「高校卒業後の進路に結び付く特色や魅力」を伝えていく努力も必要である。 県内各地域には、社会を支える人材を育成するために核となる高校が必要であり、各自治体とも連携しながら地元高校を継続的に支援する体制づくりが必要である。
9	勝浦町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 地元の高校を残してほしい。再編等を考える場合、失うものと得るものを確認した上で、議論してもらいたい。単純に生徒数の少ない学校を再編するのではなく、小規模校でしかできない教育の良さという視点も必要。 高校の存続は中山間地域の公共交通の維持にも関係している。 現在では「農業」を学校名に含んだ高校がないため、農業を学ぶにはどこへ進学すればよいのかわかりにくい現状がある。
10	上勝町	(特色化・魅力化) 現在、県教育委員会・各高等学校の教職員が、地元校の育成(中学生が行きたい学校)に向け努力されている。このことを、今以上にうまく発信できないか。
11	佐那河内村	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 各高校の特色化・魅力化の推進が一層必要と考える。同時に少子化を見据えた高校の再編等の議論のスタートも必要である。
12	石井町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 通学区域制の廃止とともに、現在の高校の配置を維持しながら、募集定員については、第3学区に集中することなく、各校に一定規模の生徒数を確保する。また、高校の特色化・魅力化を維持し、文系・理系、私立・国公立大学への進学実績を特色に含めて情報発信することで、子どもたちが切磋琢磨する環境を整えとともに選択の幅を広げる。これらにより地域間の「不平等」を解消し、通学区域制により固定化された学校間格差の是正につなげる。 遠距離通学への影響は、第1学区・第2学区の現状を踏まえても、過度な遠距離通学にはならない。また、保護者の費用負担が生じる場合は、通学費補助制度の創設を検討する。
13	神山町	(適正配置・再編統合等) 阿南市、小松島市や吉野川市、阿波市、美馬市で普通科高校の再編が必要である。普通科高校で小規模になるとスケールメリットがなくなり、効率が悪くなるため。

		生徒数の減少を見据えた公立高校の在り方の方向性
14	那賀町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 生徒数減少に伴い再編統合が進むと、地域間格差が生じる懸念がある。存続に向け地域や行政の支援が必要と思う。
15	牟岐町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 子どもたちの行きたい高校が地元にあることが、生徒・保護者にとって一番幸せなことだと感じる。そのため、すぐには効果が現れにくいのが、学力面だけにとらわれず、それぞれの地域や自治体が高校と一緒に、各校が置かれた実態に即した魅力ある学校づくりをこれからも続けていってほしいと願っている。
16	美波町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 生徒数で学校の存続に言及するのではなく、義務教育ではないものの、県都から離れて暮らす子ども達が切り捨てられることのないように、自宅から通学できる範囲に公立高校があり、県下同水準の学びが保障される環境を維持して欲しいと思います。更に、県都から離れても進学先として生徒の選択肢に入るような、魅力ある学校づくりに力を注いで欲しいと思います。
17	海陽町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 少子・高齢化や社会情勢の変化が進む中、社会や生徒の多様化するニーズに対応するために改めて公立高校のあり方について考えなければならない時期に来ていると認識している。 公立高校は、従来から地域コミュニティや地域文化の拠点として、また、地元幼・小・中との一貫した教育の充実にもその役割を果たしている。その上に、公立高校が市町村に存在することにより、人口や経済に大きく貢献しており、市町の地方創生に直結している。そういう状況の中、本町では、当事者意識を持って高校と共に地域づくり、人づくりに取り組み、地元高校存続・活性化に取り組んでいるところである。
18	松茂町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 募集定員での調整。 AI時代を見据えた学科の編成。
19	北島町	(適正配置・再編統合等) 通学区域制の議論だけではなく、高校再編についても検討すべきである。高校として機能するのかという観点で最も大事。そのためには、学校規模の確保が必要であり、教員の熱意と地域の理解は欠かせない。特に普通科高校は小規模では機能しないのではないかと。県西部、県南部に拠点となる高校を絶対に残さなくてはならない。
20	藍住町	(適正配置・再編統合等) 生徒数の減少に伴う高校の統廃合は、やむを得ない部分もあると思うが、最も重要視すべきは、功利性ではなく、生徒の将来の保障である。私立学校の少ない本県においては、公立校の果たす責任は、他県とはその重さが大きく異なると思う。統廃合を進める場合もこれにより地元に進学したい学校が無くなり、遠距離通学により経済的な負担を強いられる生徒、保護者への支援が永続的に必要である。また、都市部に比べ、公共交通機関が脆弱であり通学に困難性が高いことも考慮する必要がある。
21	板野町	(特色化・魅力化) 普通科の高等学校においてICTを活用した授業及び学校作りをしているところはないと思われるので、それに特化することによって、特色化や魅力化につながり、さらには上位校に進む足がかりになる。
22	上板町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 本県でも少子化が加速しており、現状の高校数を維持していくことは困難になると推測される。生徒数の減少に加えて多様化、国際化する生徒への対応、また、生徒の通学エリアを考慮する等、将来を見通した適正規模への高校の再編とそれに伴う学区制の改革は必要であると考えます。 また、全国的な私立高校の誘致に加え、県内は勿論、全国から広く生徒が集まるような将来を見越した魅力ある学科や高校の設立、保護者や地域から信頼・納得されるような特色ある取組や再編と同時に、学区制を改革した上で、地元の学校に通学しなくなる高校の魅力化や活性化、生徒が再チャレンジできる入試制度の抜本的改革を実施していただきたい。

		生徒数の減少を見据えた公立高校の在り方の方向性
23	つるぎ町	(特色化・魅力化) 県全体で各高校の魅力化・特色化を図っていき、子どもたちが主体的に進路選択を行えるように取り組んでいただきたい。
24	東みよし町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 通学距離があまり遠くない範囲で、地域ごとに生徒や保護者から選ばれるような核となる普通科高校が必要である。教育DXを一層進めたり、スポーツや文化の分野で選択肢を広げたりするなど、各校の魅力化や特色化を図っていかなければならない。また、専門高校もバランスよく全県的に配置する必要もある。そのためにも地元教員の配置と適正規模化を図っていかなければならない。